

第 3 1 回 日 本 が ん 登 録 協 議 会 学 術 集 會

島根県における医療圏域別がん生存率集計 (SEER\*Statを用いて)

中林愛恵<sup>1)</sup>, 川上あゆみ<sup>1)</sup>, 雑賀公美子<sup>2)3)</sup>, 森下安莉紗<sup>4)</sup>, 田村研治<sup>1)5)</sup>

1)島根大学医学部医療サービス課がん登録室, 2)国立がん研究センターがん対策研究所, 3)弘前大学大学院医学研究科, 4)島根県健康福祉部健康推進課がん対策推進室, 5)島根大学医学部附属病院腫瘍内科

背景と目的

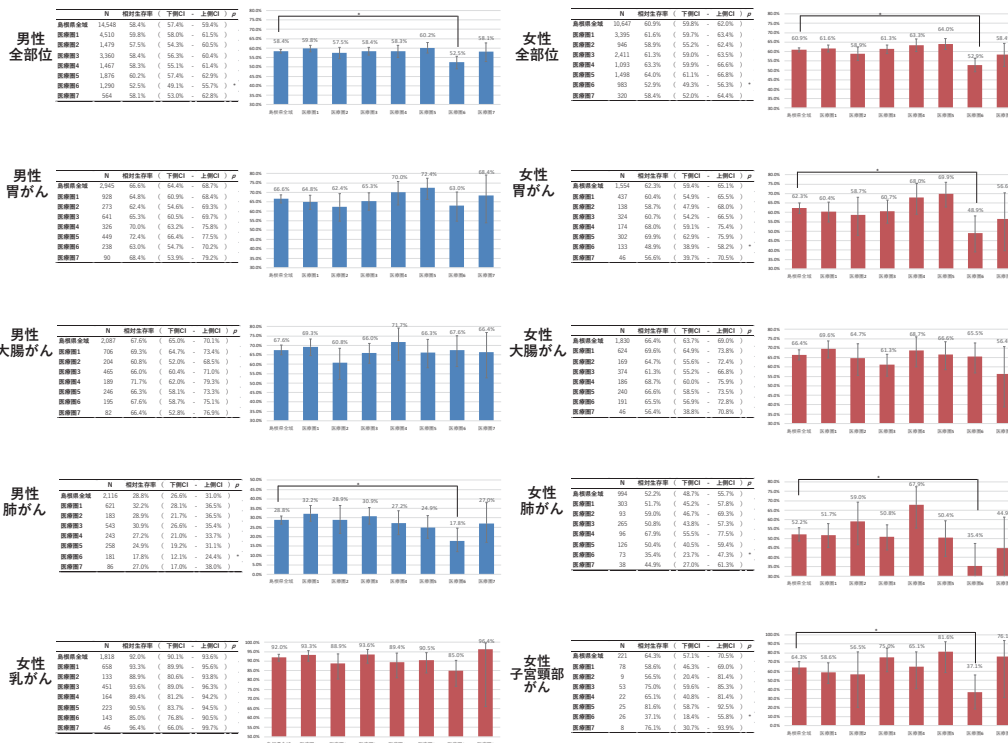
- 県のがん対策のため医療圏域別等詳細な生存率集計を求められることがある。しかし、性別・部位別等細分化すると対象者数が少なくなり不安定な値になるため、診断年を複数年プールして集計を行いたい。
- 米国国立がん研究所 (NCI) が提供するSEER\*Statは、標準集計表では出力できないさまざまな情報を利用した集計が可能なツールである。今回、SEER\*Statを用いて、医療圏別の診断年を複数年プールした5年相対生存率を算出した。

方法

使用データ	島根県全国がん登録データ (がん登録推進法18条利用許可)
使用ソフトウェア	SEER*Stat (米国国立がん研究所提供) 厚生労働省研究班と協力し、SEER*Stat用のデータベースを作成
対象部位/集計単位	全部位とがん検診5部位 / 性別、医療圏域別
対象年	2010年～2014年がん罹患 (5年分プール)
集計対象条件	DCO、上皮内がん、診断時年齢100歳以上、第2がん以降を除く 遡り調査で回答があった症例は含む
5年相対生存率	期待生存率を0.5歳分加算したcohort生存率表に基づく、 EdererII法による相対生存率

結果

- 男性
    - 全部位の5年相対生存率は島根県全体で58.4% (CI\* : 57.4%-59.4%)
    - 全部位は医療圏6が52.5% (CI\* : 49.1%-55.7%) と島根県全体と比べて低い
    - 部位別では肺がんにおいて、医療圏6の生存率が低い
  - 女性
    - 全部位の5年相対生存率は島根県全体で60.9% (CI\* : 59.8%-62.0%)
    - 全部位は医療圏6が52.9% (CI\* : 49.3%-56.3%) と島根県全体と比べて低い
    - 部位別では胃がん、肺がん、子宮頸部がんにおいて医療圏6の生存率が低い
- \*95%信頼区間



考察

- 医療圏域別の生存率の比較をする際は、対象者数が多い場合は単年でも評価が可能であるが、医療圏の人口が少ない場合は、ある程度の年数プールしての評価が必要となる。今回最新の5年間の診断症例を対象とした5年相対生存率を算出し、生存率の高低を明らかにすることができた。
- 個別のニーズに応じた解析ができるSEER\*Statは、操作が容易であり、がん登録実務者でも使用方法を学べば操作可能である。今後も利用し、がん対策に有用な情報を提供していきたい。
- 日本独自のコーディングの取り扱い等についてはもう少し対応できればよいと考える。

本発表において、利用者は、法に基づき情報の提供を受け、独自に作成・加工した資料を用いました。第31回日本がん登録協議会学術集會 当演題発表に関連し、開示すべきCOIはありません。島根大学医学部医療サービス課がん登録室 中林愛恵 連絡先: tel (0853)20-2587 e-mail sd.g-tou@med.shimane-u.ac.jp